令和７年度　第57回社会保険労務士試験　速報講評

令和７年８月25日公開

ユーキャン社会保険労務士講座指導部

■　択一式　■

●労働基準法及び労働安全衛生法●

安衛の問９・問 10 は非常に細かな根拠からの難問であり、受験者に得点させない意図を感じさせる出題でした。これ以外の問題については、冷静に対処できれば正解肢が特定しやすい問題も多く、問２～問５及び問８でしっかりと得点を重ねることができたかがポイントです。

●労働者災害補償保険法（徴収法を含む。）●

大半は、とても細かな論点や個数問題等の難しい問題及び易しい問題が占めていて、難度が両極端であった印象です。ただし、易しい～普通レベルの問題が過半数あり、６～７点は得点可能でした。

【補足：徴収法】
徴収法の６問は、易しい～普通レベルの問題でした。細かな論点もありますが、基本事項からの問題が多く、高得点も可能です。

●雇用保険法（徴収法を含む。）●

全体的には、普通レベルといえます。細かい論点も含まれていますが、通常の学習で正解肢は判断することができます。問４は事例問題です。問３と問５を確実に正解したうえで、できるだけ多く上積みしたい科目です。

●労務管理その他の労働及び社会保険に関する一般常識●

労働一般常識は、問１～問３が非常に難しいレベルですが、問４は普通レベルです。問５以降の社会保険一般常識は易しい～普通レベルの問題が多くありました。労働一般常識で１点、社会保険一般常識で３～４点確保したいところです。

●健康保険法●

全体的にやや難しいレベルといえます。例年どおり、通達や施行規則を根拠とし、細かい点を問う問題が多くありました。確実に正解を得ることができる問題が少なかったため、正解肢の候補をいかに絞れるかがポイントでした。

●厚生年金保険法●

全体としては易しめのレベルであり、高得点を狙える科目です。問６と問７は難しいですが、他の問題は通常の学習の範囲内で正解を得ることが可能です。問１と問８は、消去法で正解肢を導き出せます。

●国民年金法●

全体としては、普通レベルの問題といえます。組合せ問題や個数問題が多く、長文問題や事例問題もあり、一見すると難度が高く感じますが、正解肢は分かる問題や、消去法で解ける問題も多くあり、実力差が表れやすい良問であったといえるでしょう。